**特定非営利活動法人 地域人権みんなの会**

**2018年度 通常総会　議案書**

　　　　　2017年6月19日　/　岡山県民主会館

|  |
| --- |
| 1. **開会あいさつ** 2. **議長選出** 3. **議事録署名人について** 4. **会長あいさつ** 5. **議事**   第1号議案　　　2017年度事業活動報告  第2号議案　　　2017年度決算、監査報告  第3号議案 2018年度事業計画  第4号議案　　　2018年度予算案  第5号議案　　　物件の取得について  第６号議案　　　定款の変更について   1. **討論・質疑・採択** 2. **閉会あいさつ** |

みんなの家ななくさ　700-0056　岡山市北区西崎本町1-7　　電話086-253-8988

　みんなの家だんだん　700-0056　岡山市北区西崎本町1-10　 電話086-250-9927

　みんなの家かるがも　702-8026　岡山市南区浦安本町158　 電話086-265-1165

本部事務所　　700-0054　岡山市北区下伊福西町1-53　　　電話086-254-9555

　本部事務所②　700-0056　岡山市北区西崎本町1-10　　　　電話086-250-9904

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　Fax086-250-9906 (だんだん併用)

第1号議案　　　2017年度事業活動報告

１、会員現勢について

2018年4月1日現在、個人会員65名(前年より6名増)、団体会員6団体です。

２、臨時総会、理事会の開催について

11月に臨時総会を開催。介護事業所運営の円滑化のため運転資金の借受けを決議しました。理事会は、4回開催しました。

第1回理事会　　　2017年06月20日　岡山県民主会館　(総会後ただちに)

第2回理事会　　　2017年09月14日　　　同　　上

臨時総会　　　　　2017年11月09日　　　同　　上　　日本政策金融公庫からの借受け案件を審議

第3回理事会　　　2018年03月16日　 　 同　　上

第4回理事会　　　2018年06月07日　　　同　　上

３、小規模多機能型居宅介護事業所のとりくみ

**(1)利用実態推移表(2016年4月1日から2017年3月末)**

※　ななくさ　(登録上限29名)

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年/月 | 17.4 | ５月 | ６月 | ７月 | ８月 | ９月 | 10月 | 11月 | 12月 | 18.1月 | ２月 | ３月 |
| 介護 | ２３ | ２Ⅰ | ２２ | ２２ | ２２ | ２０ | ２２ | ２１ | ２１ | １９ | ２１ | ２２ |
| 予防 | ６ | ７ | ７ | ７ | ７ | ８ | ７ | ７ | ７ | ７ | ７ | ７ |
| 計 | ２９ | ２８ | ２９ | ２９ | ２９ | ２８ | ２９ | ２８ | ２８ | ２６ | ２８ | ２９ |
| 介護度 | 59.1 | 54.8 | 57.8 | 59.8 | 59.8 | 54.6 | 58.8 | 57.8 | 55.8 | 49.8 | 50.8 | 54.8 |

年間のべ340人、年間介護度数合計674.5　平均介護度　2.0

新規利用者さん7名　　利用中止7名

※　かるがも　（登録上限25名）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年/月 | 17.4 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | １2月 | 18.1 | 2月 | 3月 |
| 介護 | 15 | 18 | 19 | 18 | 18 | 18 | 17 | 18 | 18 | 20 | 19 | 21 |
| 予防 | ３ | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 |
| 計 | 18 | 21 | 22 | 21 | 21 | 21 | 19 | 20 | 20 | 21 | 20 | 22 |
| 介護度 | 24.5 | 30.5 | 34.5 | 31.5 | 32.5 | 33.5 | 30.5 | 34.5 | 36.5 | 41.8 | 42.8 | 47.8 |

年間のべ　246人、　　　年間介護度数合計420.75　　平均介護度1.71

・新規利用者さん　１８名　・利用中止者　１４名

* だんだん（登録上限18名）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年/月 | 14.4 | 5月 | 6月 | 7月 | ８月 | ９月 | 10月 | 11月 | 12月 | 15.１月 | ２月 | ３月 |
| 介護 | １４ | １４ | １４ | １４ | １４ | １３ | １４ | １５ | １４ | １４ | １４ | １５ |
| 予防 | ３ | ３ | ４ | ４ | ４ | ４ | ３ | ３ | ３ | ３ | ３ | ３ |
| 計 | １７ | １７ | １８ | １８ | １８ | １７ | １７ | １８ | １７ | １７ | １７ | １８ |
| 介護度 | 42.5 | 42.5 | 42.8 | 45.2 | 45.6 | 43.6 | 48.8 | 49.8 | 43.8 | 43.8 | 45.8 | 46.8 |

* 年間のべ209人、年間介護度数合計541.625　平均介護度　2.6

新規利用者さん　5名　　　　利用中止4名

**（2）収入額**　2017年4月から2018年3月　　　　　　　　　　　　　　　　（千円）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ななくさ | かるがも | だんだん | 小計 |
| 利用者の利用料負担 | 4,276 | 3,416 | 3,067 | 10,760（前年比98.0%） |
| 国保連・介護給付費 | 60,131 | 41,509 | 42,717 | 144,359（104.1％） |
| 食事代・宿泊代 | 6,074 | 3,323 | 3,705 | 13,103（92.3%） |
| 合計 | 70,482  94.7% | 48,249  108.5% | 49,491  110.2% | 168,223  前年比102.7% |

　2015年度からの介護報酬改定は、小規模多機能でも基本額はそれ以前より低く抑えられました。2016年度はその3年目。マネジメント加算、訪問体制強化加算、処遇改善加算の1.8倍化などで全体の収入が確保されました。総収入に対する人件費は70.4％。役員報酬をいれると75.6％になります。

**（3）利用者一覧　(2018年4月1日・現在)**

※ ななくさ

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 利用者数 | 独居 | 認知症 | 独居かつ認知症 | 自己所有  住宅 | 減額  対象 | 後見人 |
| 要支援Ⅰ・Ⅱ | 7 | 4 | 0 | 0 | 2 | 7 | 0 |
| 要介護Ⅰ | 6 | 5 | 2 | 1 | 5 | 4 | 1 |
| 要介護Ⅱ | 8 | 4 | 6 | 4 | 6 | 5 | 1 |
| 要介護Ⅲ | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 |
| 要介護ⅳ | 4 | 4 | 2 | 2 | 1 | 4 | 1 |
| 要介護Ⅴ | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 合計 | ２８ | ２０ | １２ | ９ | １５ | ２２ | ３ |

※ かるがも

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 利用者数 | 独居 | 認知症 | 独居かつ認知症 | 自己所有  住宅 | 減額  対象 | 後見人 |
| 要支援Ⅰ・Ⅱ | １ | １ | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ |
| 要介護Ⅰ | ８ | ７ | ２ | ３ | ８ | ４ | 1 |
| 要介護Ⅱ | ３ | ２ | ３ | ２ | ２ | ０ | 1 |
| 要介護Ⅲ | ７ | ５ | ５ | ３ | ４ | ３ | ０ |
| 要介護ⅳ | １ | １ | １ | １ | １ | ０ | ０ |
| 要介護Ⅴ | １ | ０ | １ | ０ | １ | ０ | ０ |
| 合計 | ２１ | １６ | １２ | ９ | １６ | ７ | ２ |

※ だんだん

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 利用者数 | 独居 | 認知症 | 独居かつ認知症 | 自己所有  住宅 | 減額  対象 | 後見人 |
| 要支援Ⅰ・Ⅱ | ３ | １ | 0 | 0 | ２ | １ | 0 |
| 要介護Ⅰ | ３ | ２ | 0 | 0 | ２ | ２ | 0 |
| 要介護Ⅱ | １ | １ | 0 | 0 | ０ | １ | 0 |
| 要介護Ⅲ | ４ | １ | 0 | 0 | ２ | ３ | 0 |
| 要介護ⅳ | ５ | ２ | 3 | 1 | ４ | ３ | 0 |
| 要介護Ⅴ | １ | １ | 0 | 0 | ０ | １ | 0 |
| 合計 | １７ | ８ | 3 | 1 | １０ | １１ | 0 |

**※　合計**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 利用者数 | 独居 | 認知症 | 独居かつ認知症 | 自己所有住宅 | 減額  対象 | 後見人 |
| 要支援Ⅰ・Ⅱ | １１ | 6 | 0 | 0 | 4 | 8 | 0 |
| 要介護Ⅰ | １７ | 14 | 4 | 4 | 15 | 10 | 2 |
| 要介護Ⅱ | １２ | 7 | 6 | 6 | 8 | 6 | 2 |
| 要介護Ⅲ | １３ | 8 | 9 | 4 | 7 | 7 | 0 |
| 要介護ⅳ | １０ | 7 | 6 | 4 | 6 | 7 | 1 |
| 要介護Ⅴ | ３ | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 0 |
| 合計 | ６６ | 44 | 27 | 19 | 41 | 40 | 5 |

減額対象は、市民税非課税の世帯の利用者さん、としています。ななくさ79％、だんだん65％、かるがも33％とその率に大きな開きがあります。一人暮らしの人の率は2017年3月で74％、2018年は67％です。かるがもは、認知症の方の比率が57％と比較して高くなっています。現状からの課題として、認知症の方への介護の在り方、住宅確保、看取り、病院や訪問看護ステーションとの連携などがあげられます。

**(4)スタッフ学習、宣伝活動**

①みんなの家スタッフ交流学習会

ななくさ、かるがも、だんだん、3つのみんなの家スタッフ交流学習会を2017年10月7日（土）と2018年1月21日（日）の２回に分けて開催しました。どちらも、NPO法人事務局メンバーも含めて、２３名が参加してくれました。

各事業所から事例検討の報告、３つの分散会での討議、また全体会に戻り、それぞれの分散会での特徴を報告してもらいました。認知症を呈する利用者さんが増えている現状、認知症への理解の広まりと課題、チームケアの大切さ、みんなの家への高い評価と期待、地域社会での支え合う仕組みづくり、などについてさまざまな意見が出し合われました。以下のような意見がだしあわれました。

　・認知症が進み、昼夜を問わず徘徊や転倒が繰り返されると、常に誰かが「ついていないといけない」という現実があり、スタッフ間の連携はもちろん重要だが、自宅にいる際の家族の人もとても大変だと思う。

・急に怒ったり、穏やかだったりと気持ちが一定しないことはあるが、その人の人間性、尊厳を守りたいし、大切にしていきたい。

　・生きてきた過程は人それぞれ。どんな人でも「その人らしさ」を大切にしていきたい。また、ご家族の方の希望も大事にしていきたい。

　・その人の「穏やかになれるポイント・喜ぶポイント」などを、どう見つけていくか。

・小規模多機能だからこそ色々と柔軟に対応してあげられるが、「ここまでするべきなのか？」それとも「もっとしてあげるべきか？」わからなくなることがある。

　・小規模多機能を利用するまでの経緯は様々だが、その人にとって「何が起きたことが大きな変化だったのか」を知ることで、見えてくることもある。

②岡山市内民医連事業所地域包括ケア・連携会議主催の事例報告会

2017年12月20日、120名の参加で今年度初めて開催されました。8事例の発表がありました。みんなの家ななくさの住宅さんが、「高齢化が進む中、地域に暮らす高齢者が安全に安心して過ごせるように、地域に住む人々の力や近隣の社会資源を生かした共同の取り組みによって支えていけるよう努めていきたい」と生活困難な新たな利用者さんの事例をもとに決意をのべました。

**(5)その他**

　①事業所紹介リーフの作成

　　　法人と3つの事業所を紹介する新たなリーフを若い男性スタッフが準備し作成、1000枚を印刷しました。

②スプリンクラー設置

　　　岡山市からの補助金をもとに、みんなの家だんだんにスプリンクラーと自動火災通報装置を設置しました。すでに、みんなの家かるがもは設置されています。ななくさは今後の動向をみて対応していきます。

　③事業所更新

みんなの家ななくさが12年目の更新申請(6年糊毎に岡山市に申請)となりました。

４、学習会

**(1)　あなたとともに考える人権問題学習会**

2017年12月9日、地域人権みんなの会は「2017年度のあなたとともに考える人権学習集会」を岡山市北区の岡山市勤労者福祉センターで開催。介護事業所で働く人や市民など59人が参加しました。

今回は、「社会における権利擁護と地域福祉を考える」をテーマに、人として生きる権利擁護の取り組みと地域社会における福祉のあり方についてともに考えようと、講師に川崎医療福祉大学の李永喜（リー・ヨンヒ）准教授に依頼。李永喜先生から「今日の権利擁護と地域福祉」と題した講演をしてもらいました。

　講師は、地域福祉を拒む3つの壁を、意識の壁、情報の壁、制度・サービスの壁ととらえていること、そして地域における様々な課題として、加齢・障害、孤立、災害、権利擁護がある、と話されます。2011年1月の札幌市での姉妹孤立死のこと、大人の引きこもりの実態などを事例に、権利擁護の現状を話されます。ソーシャルアクションの必要性に言及し、重層的な権利擁護システム構築に向けて公私協働の必要性を強調されました。

また、地域福祉について「住み慣れた地域社会の中で、家族、知人、友人などと社会関係を保ち、誰もが自分らしく普通の暮らしを送ることができる状態であることが要」とし、推進の方向性について、「地域の持つ力を公的な支援体制が協働して、初めて安心できる地域となる」と語りました。また、権利擁護と地域福祉のマッチングとして、「支える」「繋げる」「守る」「整える」「展望する」がキーワードで、地域（社会）の変革につながる活動が重要と講演を結びました。

介護にかかわる事業所からの報告は、高齢者介護の分野からは小規模多機能ホームの「みんなの家ななくさ」、「みんなの家かるがも」から、障害者介護では「ヘルパーステーション・まんまる」から具体的事例もふくめて現状と課題を提供してくれました。

12月6日に岡山地裁で結審を迎えた浅田達雄さんから、参加者のみなさんへお礼のあいさつがありました。また、会場から「制度の充実こそが権利擁護上でとても大切、地域が崩壊している現状をみると地域福祉というだけでは対応できかねないのでは」、「地域の概念は暮らしの場であって行政が捉える場合と違いがよくある」などという意見や質問も出されました。

アンケートには「有意義な時間が持てました、講演がとっても良かった」「地域福祉について、権利や人権としての意識と制度の改善、人の繋がりの大切さを学びました」など、感想や意見が寄せられていました。

1. 会報「ＮＰＯ・地域人権だより」の発行について

2016年度の会報は、2回のみの発行になりました。印刷部数は毎回１００部です。

第48号、2017年8月25日発行

第49号、2018年1月2日発行

6、その他

①岡山県地域人権問題研究集会実行委員会に加入し、福祉分科会などに積極的に参加しました。

②障害者が65歳になると支援法でなく介護保険を優先させる行政行為は憲法違反であると闘っている「浅田達雄さんを支援する会」のとりくみに力を注いでいます。

③納税者としての権利が守られること、そして働く人たちの権利が拡充されること、これらを統合的に捉え経営をめざすために、岡山民主商工会に2018年5月1日より加盟しました。

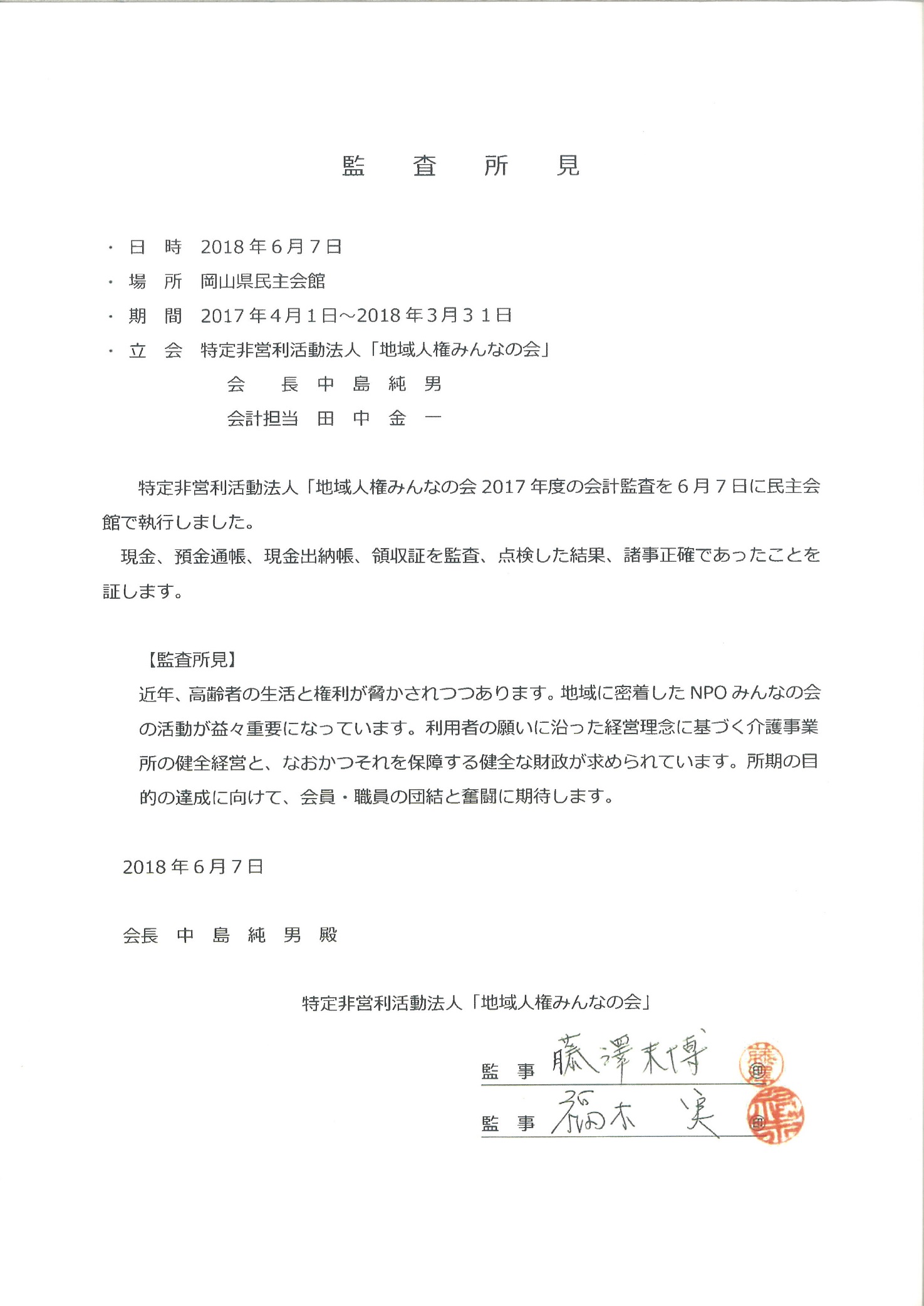
第2号議案　　　2017年度決算、監査報告







監査報告



第3号議案 2018年度事業計画（案）

2018年度の活動は以下を重点においてとりくみます。

**1、ＮＰＯ法人の活動の広がりをめざします**

社会保障の概念が自助を中心に共助を置き、公助を切り捨てようとする動向が強まる中、私たちは各事業を住民に依拠して推進させるためにも、理事会と事務局、会員の連携のもと、本来の社会保障充実へのとりくみを強めます。また、介護にかかわる新たな事業所開設への準備など理事会で以下の課題を追求していきます。課題ごとに、会員のみなさんに協力を呼び掛けます。

①法人組織の在り方を検討し具体化する

　ア、ＮＰＯ法人としての機能強化・・・・・事務所機能の整備、理事会組織運営

イ、将来検討・・・・・　社会的貢献活動、事業活動、要求実現活動　これらの総合的なとりくみ

ウ、継承し発展させるための具体的人的配置　・・・若い人たちの登用

②事業活動の安定・強化をはかるとりくみ

　ア、小規模多機能事業所の安定的運営と発展

〇正規職への転換、給与などの改善

〇職場環境の改善

〇働き甲斐と結びついた介護観の形成

〇民医連共済の活用

〇民医連活動へのより接近と実践

　イ、経営の健全化・透明化、そして運営資金の確保

　　　〇各事業所管理者さん・ケアマネさんの月一度の合同会議などで経営実態を確認

　　　〇理事会での経営・運営実態の報告

　　　〇本部事務局での全体の財政の進捗状況などの確認

　　　〇ホームページに財政も含めた総会議案書の掲載

　　　〇会員向けの「地域人権だより」に経営状況などを掲載

③社会保障、社会福祉の向上、互いに助け合うとりくみ

　ア、浅田訴訟、第1審判決勝利の意義を学び、控訴審にむけた学習

　イ、成年後見制度の活用支援

　ウ、いのちのとりで裁判、年金引下げ違憲裁判、山口雪子さん裁判など

　エ、高齢者一人暮らしの不安に対応できるとりくみ、事業活動の検討

　オ、地域住民への生活支援のとりくみ、事業活動の検討

**2、「ななくさ」「かるがも」「だんだん」活動の安定と強化を**

**（1）｢みんなの家ななくさ｣のとりくみ**

　2006年７月、小規模多機能ホームとして市内で2番目に開設できました。地域密着型の典型的なとりくみ

として利用者さんや家族、関係者から評価を受けています。今年7月から、開設以来12年、2度目の岡山市

更新申請をクリアした事業所となります。

ななくさの地域密着としての特徴の一つは、2012年4月から、ななくさに隣接するアパートを活用していることです。独居の利用者さんたちを在宅の生活支援と介護という形で、小規模多機能型居宅介護事業所が、その方の最後の人生までともに過ごせたらという決意のもとでの取り組みとなっています。その取組は訪問介護ステーションなどとの連携にもつながっています。

利用者さんは石井中学校区に在住の方たちが中心になってきました。在宅支援事業所、病院関係者などからの紹介、地域人権運動の地域組織、生活と健康を守る会などからも利用につながる相談もよせられ、事業所と地域社会を結ぶひとつのパイプになっています。

ななくさはだんだんと共同で運営推進会議を設置しています。運営推進会議には、小・中学校長、町内会長、民生委員、利用者のご家族、地域包括支援センター、公民館スタッフ、利用者後見人、他の小規模多機能事業所の管理者さんなどの方々が参画していただいています。この方たちの力も発揮していただいて、地域密着型の事業所として発展させていきます。

家族会も利用者・家族の意見、要望を取り入れる重要な機会と位置付けて積極的に開催します。

また、公民館活動の「つながり隊」活動にも積極的に参加して地域により溶け込む努力をします。介護・福祉にかかわる相談活動も積極的に展開し、協同の場、ネットワークづくりをめざします。１１月には、みんなの家ななくさ・だんだん秋祭りを開催し、地域の方々との交流を深めます。

経営については、利用者さん登録は28人／月、収入は600万円／月をめざします。

みんなの家だんだんの職員と一緒に合意された今年度目標は、

1.　理念に基づいて実践する

カンファレンス時の意志統一

理念について学習の場を設ける

2.　職員間の連携とチーム介護の確立

申し送りノート活用。夕ミーティングの徹底。

職員会議、事例検討の定例化

事業所評価目標の確立

3.　介護の質の向上、介護技術資格取得を目指す

１年のうち偶数月6回の職場学習の取り組み

個人目標に対しての外部研修への取り組み。各学習会への参加。資格取得にかかわる啓発、受講料の支給

4.　地域との交流を深める

三門地域つながり隊に参加。地域行事、文化祭など積極的に参加。地域ボランティアへの呼びかけ。運営推進会議での地域評価。秋祭りに参加頂ける様に地域の方へ呼びかけ。

5. 防災について（地域防災マップ検討と活用、非常持ち出し用グッズ、食料の備蓄など）

年2回避難訓練の実施（地域方の参加）

消火器の確認。防災マニュアルについて学習会

**（2）｢みんなの家かるがも｣のとりくみ**

かるがもは、岡山市の南区在住の｢友の会｣メンバーから要請され、2010年4月1日に開設し8年が経過し

ました。開設当初は医療生協関係者、友の会関係者などのご紹介で経験者を中心にスタッフも構成することができました。現在は、地元の方々や、介護には未経験の方々も意欲をもって入職されています。介護・医療の経験豊かなスタッフも加わり、より利用者さんに寄り添える体制や運営方針の確立が望まれています。

運営推進会議には、友の会役員、地域包括支援センターのスタッフ、地元町内会長、民生委員、利用者後見人の方々なども参加してもらえる状況になっています。地元、浦安本町の住民の皆さんに、ニュースや「かるがもたより」の活用をつうじて、小規模多機能としての、みんなの家かるがもがより親しまれる、より頼りになる存在となるように取り組みます。今年度は１０月に、かるがも健康まつりを開催し、地域住民の方々との交流を深めます。

スタッフの連携と学習に力を注ぎます。家族会の開催、友の会との連携、住民との交流の機会なども含め、地域密着型の施設として発展をめざします。

　友の会の活性化をはかり、経営については、22人／月以上の利用登録者、収入は430万円／月をめざしま

す。特に、今年度は以下の点を重点に取り組みます。

1、理念に基づいて実践できる体制作り

職員間のコミュニケーションに努め、建設的な意見・話し合いが出来る職場作りに、利用者さんを支えよりよい介護が提供出来るように、介護の質の向上に努めていきたい。

2、職員間の連携とチーム介護確立

受け持ち（役割）を中心にカンファレンスに取り組む為にもミーティングノートの活用の工夫（誰が中心に書くか等）を考えていく

3、介護技術の向上、認知症に対する理解を深め、介護の質の向上をめざす

積極的に研修へ参加していく。学んだ事を職場で共有していく。

回想法・頭を使うこと、手先を使うこと等の工夫、その日の利用者のメンバーも考えたレクの工夫。

他施設への見学から学んでいく。ボランティアの参加も集っていきたい。

4、地域とのかかわりを強め交流を深める

地域資源についての学習会を開催し知識を高めていく

事業所から町内へアピールしていく、かるがも健康祭りの開催

利用者の住んでいる地域との連携

**（3）｢みんなの家だんだん｣のとりくみ**

「みんなの家ななくさ」のサテライトとして「みんなの家だんだん」を2013年7月1日に開設、今年は5周年を迎えます。出発当初は、登録定員10名、通い6名、宿泊3名で運営しましたが、2014年1月から定員18名、通い9名、宿泊5名とし、訪問体制を強化しました。2015年4月からは、通いを12名に変更しています。

今年度は、17人／月の利用者登録、400万円／月を目標とします。

ななくさと協力して、利用者さんを中心に地域住民に開かれた催しを企画します。また、認知症利用者さんへの理解と具体的対応などにかかわり、特に困難な事例の場合ほど基本的な理念こそが大切だという姿勢が貫かれるための、学習や集団討議を大切にします。

共通の目標をもち、スタッフの連携を強め、引き続き、人権認識を高めあえるような職場づくりを目指します。

**(4)職員の働きがいがある職場作り**

　事業所の運営の中心は職員の方々です。職員がいきいきと仕事が出来る条件作りが利用者を大切する施設につながります。職員が安心して働ける条件作りをさらに追求します。また、専門職としての役割がさらに発揮できるよう、研修機会の提供、将来の事業所作りへの参画などを重視します。

　60歳未満で2年間の労働条件、40時間/週を経験された方には、その方の希望も取り入れながら正規職員としての雇用に切り替えていきます。

スタッフ一人ひとりが介護の仕事を大切にして、社会的に寄与すること、そのことが介護の仕事への社会的評価を高めること、利用者さんの生活の向上につながること、自らの生き方をひろげて充実させることにつながるという意気ごみを寄せあうことができる職場として発展させていきます。

ななくさ、かるがも、だんだんの職員間をはじめ、当会の役員と職員の交流・話し合う場を確立しながら、民主的運営のもと互いに成長が保障される職場をめざします。

毎月、中旬に、３つの事業所の管理者、ケアマネで構成する合同事務局会議を開催します。

そのほか、定期的に３つの事業所のケアマネ合同会議、将来検討委員会などを開催し、法人としての統一性とそれぞれの事業所としての柔軟性を活かし、利用者さんに寄り添える支援と介護を展開します。

今年度は、「介護観と接遇」を学習し、スタッフ間で交流できる集会を開催します。11月11日(日)午後1時半から民主会館、講師は公益社団法人・認知症の人と家族の会岡山県支部の副会長、景山富久子さんです。

民医連に加入している組織として、共済の取り組みなどに加わり、共済制度を活用していきます。

**(5)事業所と法人の連携について**

法人として、事務局を担う人たちや各事業所スタッフさんたちに、さまざまな学ぶ機会を保障します。制度教育や職場外のいろいろな企画などへの参加を大切にします。「人は必ず変わる」という観点から一人ひとりの職員の成長を大いに期待して、声や思いに耳を傾け、仕事や集団づくりへの積極性を引き出すような援助や話し合いが求められています。職場目標と結びついた個人目標づくりを援助し、個別面接も重視します。

各事業所がＮＰＯ法人組織の理念を具現化することを目標に取り組むなかで、様々な課題が発生します。課題を前向きにとらえて事業所の前進、地域の福祉力と自治能力の向上、制度の前進的な改革などに結びつけます。

そのためにも、

①事業所経営理念の遂行と経営財務に責任を負い経営の中軸となる管理職集団の形成

②職員が共通の理念に照らして対等に意思疎通ができる体制の確保

③利用者、家族の要求などが主張しやすい運営体制

④事業所職場から発する諸問題について適宜相談し合うことができる法人の体制、などをめざします。

**(6)持続し展望を見据えた経営のために**

ななくさ、かるがも、だんだん、3つの事業所を開設・運営するうえで、一般財団法人・岡山県民主教育研究会などの団体・個人から原資を借りうけています。契約に基づき返金していくことがまず求められます。また、施設・設備のメンテナンスや更新、新たな福祉事業の展開なども想定して、自己資金を確保していくことは、利用者さんの立場に立ったうえでも経営上欠かせないことです。

営利自体を追求することが事業目的ではありませんが、剰余金を生み出すことは、働く人々の安心を確保することであり、さらにひろがる利用者さんたちの潜在的な福祉要求を掘り起こし、地域の福祉力を組織して積極的な活動を展開する基盤づくりとなります。公的制度ではない、住民の諸要求を事業化していくうえでもこの保証があってこそ着手・実現できるものと自覚して、経営にあたっていきます。

また、新たな目標に向かって事業展開を考えるとき、その資金が大きな課題となります。金融機関から昨年度運転資金を借り受けました。返済計画の実行、そして新たな資金対策を検討していきます。

**（7）報酬をうけとる役員について**

報酬をうけとる役員として、2018年度は田中金一、吉岡昇の各理事を充てます。報酬は年額4,495,800円、

5,500,800円、その期間は2018年6月から2019年5月とします。2名は、NPO法人地域人権みんなの会、小

規模多機能型居宅介護事業所「みんなの家ななくさ」、｢みんなの家かるがも｣、「みんなの家だんだん」の発展

を企画し実施する任務にあたります。

**3、県民を対象とした学習懇談会などの開催について**

**(1)「人権を考える学習集会」**

今年度は、学習集会を12月1日(土)に、岡山市内で開催します。

医療・介護現場の実態、患者・利用者さんたちと働く人々の置かれている現状、これらを柱にして人権保障にかかわる学習を深められる企画を検討します。

規模は100人とし、岡山市の人権啓発推進補助金事業として取り組みます。

**(2)地域人権問題研究集会など**

岡山県地域人権問題研究集会2018、は2019年2月2日(土)に開催されます。NPO法人地域人権みんなの会も実行委員会に加入し、「人権」、「地域」の分科会などで取り組みの成果が発揮できるように奮闘します。

また、地域人権問題全国研究集会は、2018年9月14日、15日に東京都内で開催されます。

**（3）その他**

　「民医連」をはじめ、医療・介護の実践を通じて人権確立をめざす諸団体が提起する学習会にも積極的に対応します。子育て世代の要求を人権の視点からとらえる課題の一つとして、「保育所、幼稚園、子ども園」にかかわる学習会などを検討します。

　県内で惹起している人権課題、岡山短期大学の山口雪子准教授への不当な授業外し・研究室明け渡し命令の撤回を求めた裁判、これは2017年3月に続いて、2018年3月の高裁でも勝利しましたが、学園側が上告。引き続き裁判が行われます。支える活動などに積極的に応えていきたいと思います。

**4、広報・宣伝・学習・研究活動**

地域住民・市民の観点から人権を考える観点での広報・宣伝活動は極めて大切になっています。住民の民主的地域づくりのとりくみや介護と事業所の社会的認知を高めていくとりくみ、社会保障を充実させる諸活動などにも積極的に参加し、非営利共同のとりくみを重視します。

一般財団法人岡山県民主教育研究会と共同して、「人権」や「地域」にかかわる研究書籍を発行し普及します。｢地域人権だより｣を適宜発行します。会員内外からの投稿もいただき内容を充実させます。NPO法人地域人権みんなの会のブログを活用し、公開の原則にも対応していきます。

将来にわたり安定的な事業展開を展望する上での法人のあり方の研究を具体的にすすめます。また、それぞれの事業所の内容、地域密着で成果を上げているとりくみなどを広く市民に広げていきます。

岡山県人権連などがよびかける、人権学習や人権確立・擁護の活動、具体的要求の実現などをともに展開しながら、岡山県地域人権ネットワークづくりを検討していきます。

**5、会員の拡大**

諸活動を積極的に展開させるなかで会員拡大をめざします。ＮＰＯの意義と当会の目的を多くの人に理解をえる独自のとりくみも必要です。

　学習活動、事業活動などに会員外の人々の参加、協力を訴え、そのとりくみを通じて入会を働きかけます。また、専門家の方々に直接入会の呼び掛け活動を展開します。

　個人会費は、月額250円です。70歳以上の方、障害者の方などは月額100円とします。

**6、運営について**

①　理事会はすくなくとも4ヶ月に一度開催することをめざします。

②　個別分野にかかわる計画づくりの会議は随時開催します。

③ 「NPO・地域人権たより」は年4回程度発行します。

④　ななくさ、かるがも、だんだんの運営にかかわるとりくみや諸会議に積極的に参画します。

⑤　県内の人権課題に積極的に接近し、特に福祉の向上をめざすとりくみのために奮闘します。

⑥　東日本大震災、熊本地震、原発被害を受けている人々への支援を引き続き行います。

⑦　民医連、民商、商工会議所に加盟していることを活かし、社会的信頼を高めながら、安定性、将来性を確立します。

第４号議案　　２０１8年度予算・案



第5号議案　不動産財産の取得について

「みんなの家ななくさ」をNPO法人地域人権みんなの会の所有にすることについて

①ななくさの不動産としての環境

　・土地　所有者　住宅俊乃さん

西崎本町743-4　 94.68㎡　　　評価額　586万円

　　　　　西崎本町743-5　118.95㎡　　　評価額　736万円

　　　　　　　　　　　　213.63㎡(64.7坪)　　　1322万円

　　・家屋　所有者　　小室都

　　　　　鉄筋2階建て　　1989年建築

②所有する目的、意義と具体的対応

　　・NPO本部の不動産の財産　今後の事業活動には必要

　　・2階部分の活用　　事務室、休憩場所などの確保

　　・修理、改修などの負担の明確化に

　　・分割支払で対応してもらえる

　　・理事会での合意、総会での決定

③売買契約内容

　　　・2018年10月1日

　　　・売買の金額　　1400万円

　　　・支払方法　　　4年間での支払い　(300万円、300万円、400万円、400万円)

第６号議案　定款の変更について

　変更内容・・第５条、特定非営利活動に係る事業に「予防小規模多機能型居宅介護事業」を加える

　提案理由・・本来、挿入しておくべきものとして行政より指摘を受けた

　具体的条文

第５条　 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

　　※ 現 行　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　※ 改 正 案

（1）　特定非営利活動に係る事業

①　人権講演会の開催

②　人権問題相談会の開催

③　地域社会における人権問題の研究誌の発行、普及

④　介護予防教室、ホームヘルパー研修事業

⑤　訪問介護、家事援助等の在宅福祉サービス事業

⑥　通所介護事業

⑦　グループホーム事業、給食サービス事業

⑧　地域づくりの提言運動

⑨　子育て教室の開催

⑩　人権、福祉、子育てに関する広報機関紙発行事業

⑪　小規模多機能型居宅介護事業

及び介護予防小規模多機能型居宅介護事業

⑫　福祉用具貸与事業

⑬　ショートステイ事業

⑭　居宅介護支援事業

⑮　成年後見人制度の支援活動

（１）　特定非営利活動に係る事業

①　人権講演会の開催

②　人権問題相談会の開催

③　地域社会における人権問題の研究誌の発行、普及

④　介護予防教室、ホームヘルパー研修事業

⑤　訪問介護、家事援助等の在宅福祉サービス事業

⑥　通所介護事業

⑦　グループホーム事業、給食サービス事業

⑧　地域づくりの提言運動

⑨　子育て教室の開催

⑩　人権、福祉、子育てに関する広報機関紙発行事業

⑪　小規模多機能型居宅介護事業

⑫　福祉用具貸与事業

⑬　ショートステイ事業

⑭　居宅介護支援事業

⑮　成年後見人制度の支援活動